

# 子供の食事や栄養に対する 保護者の関心のあり方とその背景

東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科

---

檜木智彦, 若松秀俊

2002年10月19日、於筑波大学(旧図書館情報大学)

# 本研究の背景と目的

---

## <背景>

### 近年における関心の高まり

- ・ 子供の生活や食習慣に対する問題や懸念
- ・ 子供の生活や食習慣に対する保護者の役割

## <目的>

- ・ 「子供の食事や栄養に対する保護者の関心」のあり方とその背景因子の検討

# 本研究の基となった調査の方法とその対象

調査テーマ：「生活習慣が子供の健康に及ぼす影響」

調査実施：日本健康科学学会「子供と健康」分科会

調査法：マークシート方式によるアンケート(質問335項目)

調査年：1990年～1994年

調査対象：北海道, 岩手, 千葉, 静岡, 福井, 滋賀, 和歌山,  
山口, 高知, 鹿児島, 各都道府県の小中学生と  
その保護者

標本抽出：多段層別無作為抽出

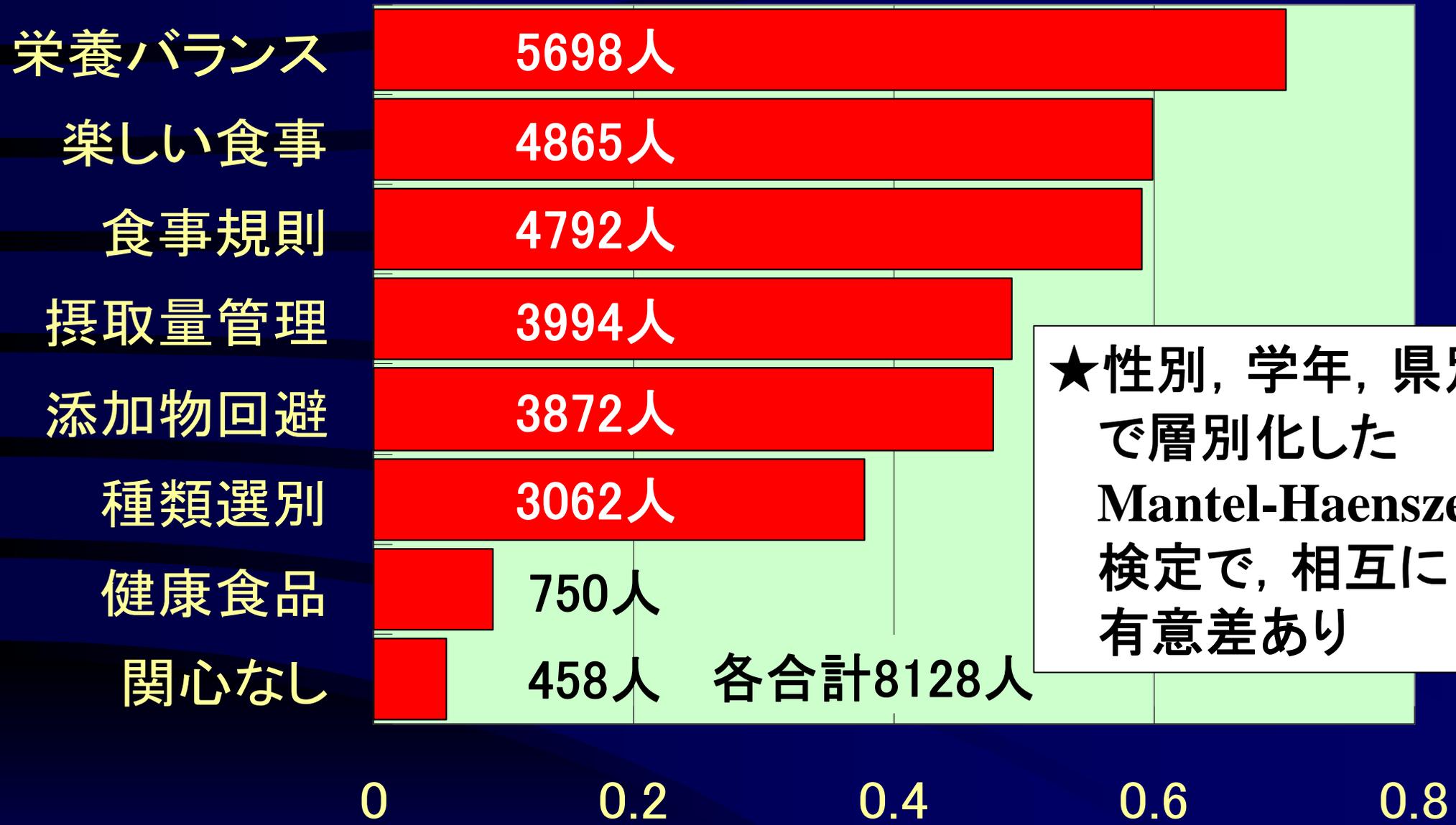
抽出標本数：1県約1000人, 合計約10000人

有効回答数：全国計9828人(回答率約98%)

# 本研究で検討対象となった「子供の食事や栄養に対する保護者の関心」に関する調査項目

以下の子供の食事や栄養に対する保護者の関心に関する項目で該当するものがあればいくつでもマークしてください

- (1) 食事の摂取量管理に関心がある
- (2) 栄養バランスに関心がある
- (3) 食事の規則を守ることに関心がある
- (4) 楽しく食事をすることに関心がある
- (5) 食品の種類選別に関心がある
- (6) 添加物入りの食品を避けることに関心がある
- (7) いわゆる健康食品を与えることに関心がある
- (8) 食事・栄養管理や食品選択に関心が無い

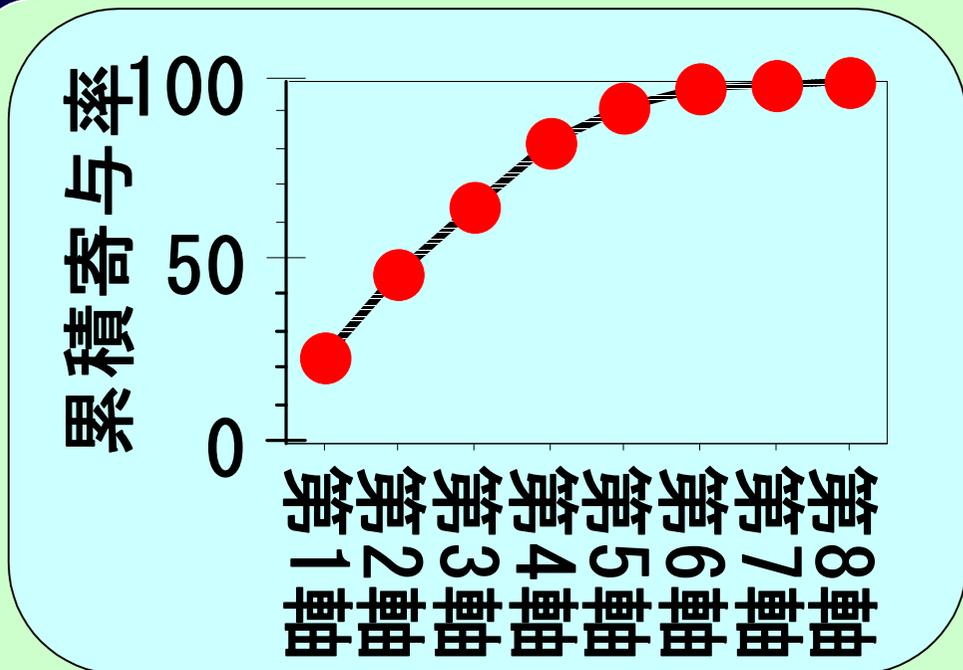


★性別, 学年, 県別  
で層別化した  
Mantel-Haenszel  
検定で, 相互に  
有意差あり

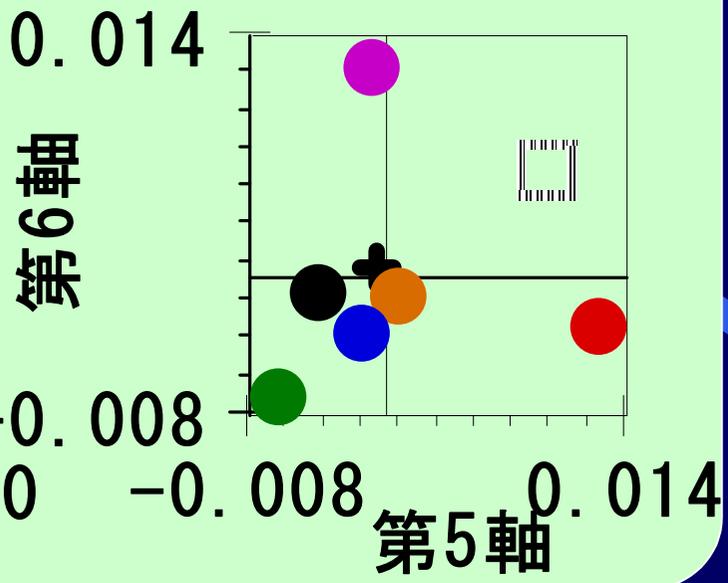
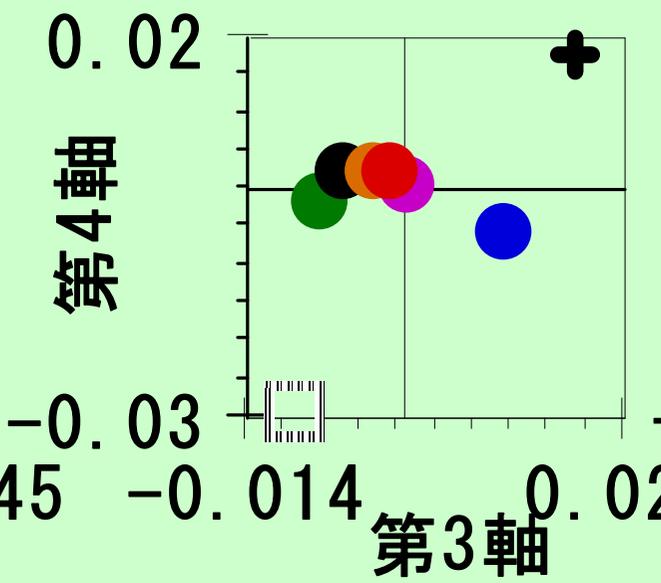
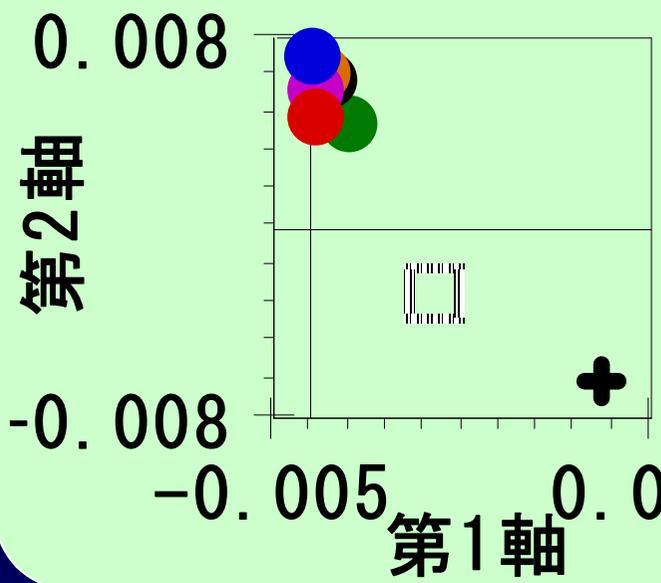
# 各「子供の食事や栄養に対する保護者の関心」のマーク回答数と回答率

## 図(各「子供の食事や栄養に対する保護者の関心」のマーク回答数と回答率)の説明

- ★ 性別、学年の欠側のない8128人を対象に、各「保護者の関心」(グラフ縦軸)のマーク回答率(グラフ横軸)を算出した。
- ★ 「健康食品を与えることに関心がある」は10%弱、「食事・栄養管理や食品選択に関心が無い」は約6%の回答率だった。
- ★ 性別、学年、居住地域で層別化した「保護者の関心」どうしの関連性に対するMantel-Haenszel検定を行ったところ、「保護者の関心」のすべての組み合わせで有意差が認められた。



- 栄養バランス
- 楽しい食事
- + 関心なし
- 健康食品
- 種類選別
- 食事規則
- 摂取量管理
- 添加物回避



# 数量化Ⅲ類における累積寄与率とカテゴリースコア

## 図(数量化Ⅲ類における累積寄与率とカテゴリースコア)の説明

- 累積寄与率より、各「保護者の関心」のあり方は第6軸までの因子によって説明できる。そのため、ここではまず第5軸までについて以下に示す解釈を行った。

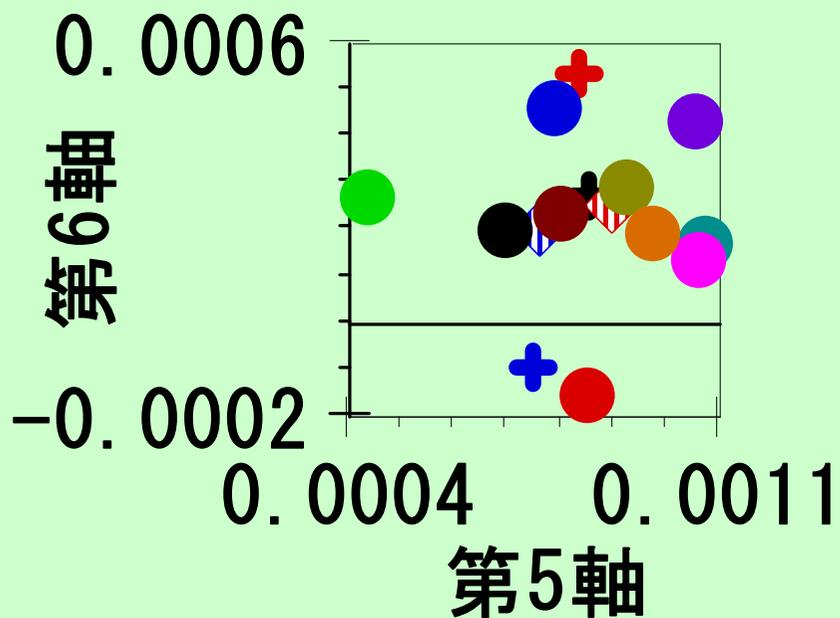
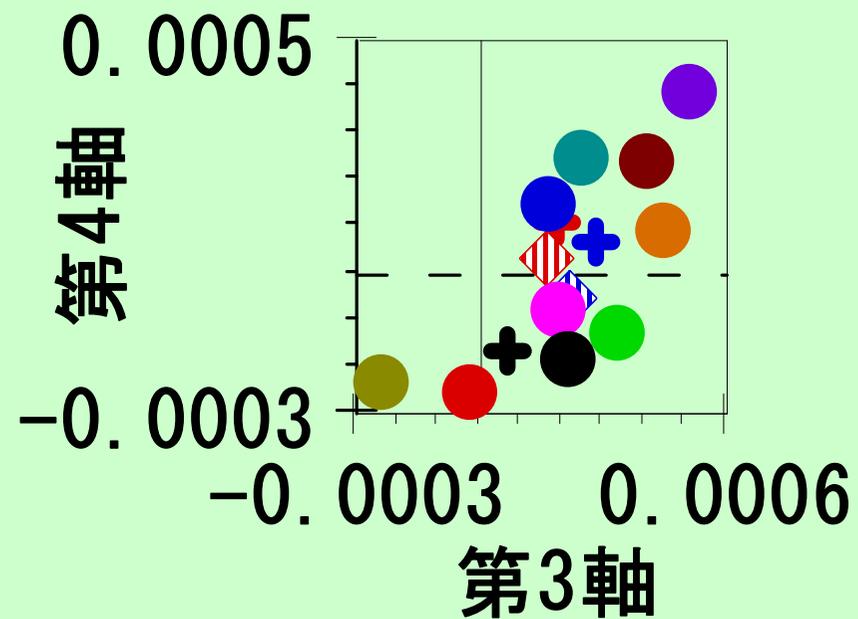
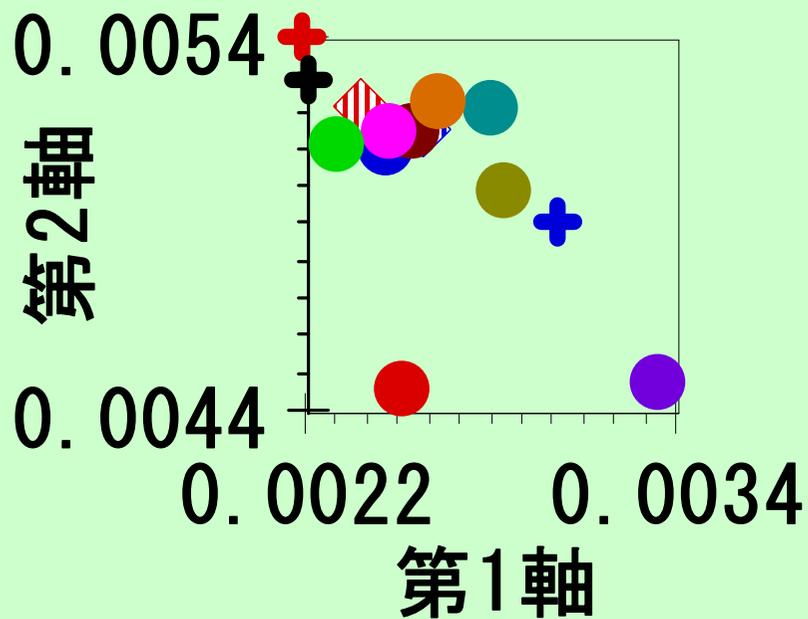
第1軸:「栄養バランス」、「楽しい食事」、「食事規則」、「摂取量管理」、「添加物回避」、「種類選別」以外の子供の食事や栄養に対する全体的な関心の弁別軸

第2軸:「栄養バランス」、「楽しい食事」、「食事規則」、「摂取量管理」、「添加物回避」、「種類選別」に対する子供の食事や栄養に対する全体的な関心の弁別軸

第3軸:「食品の取捨選択に対する関心」の弁別軸

第4軸:「健康食品を与えることに対する関心」の弁別軸

第5軸:「食事や栄養に対して抑制的か否か」の弁別軸



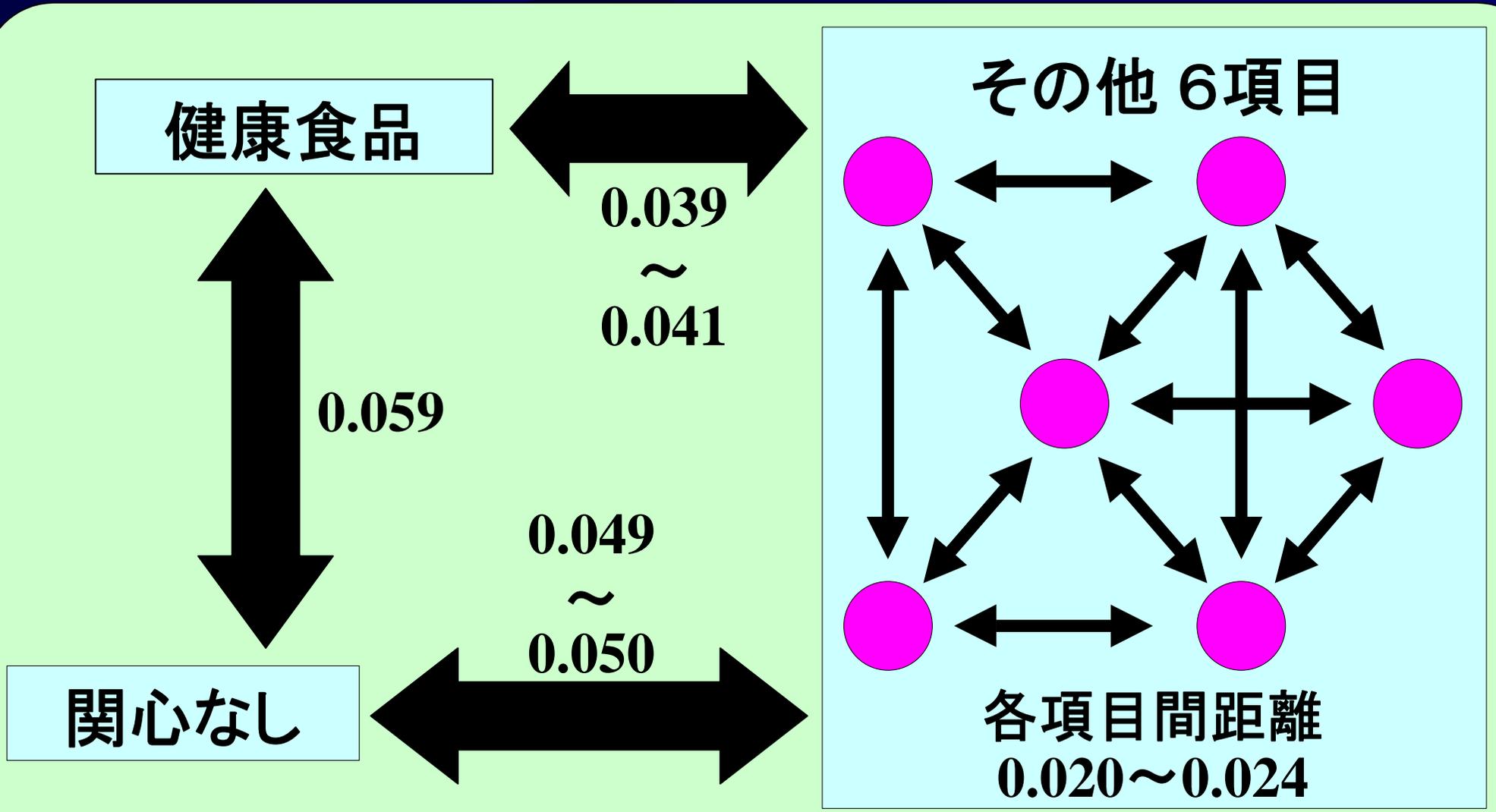
# 数量化Ⅲ類によるサンプルスコア層別化平均

## 図(数量化Ⅲ類によるサンプルスコア層別化平均)の説明

- サンプルスコア層別化平均は、カテゴリースコアと同じ軸上にプロットされる。そのため、サンプルスコア層別化平均を利用して第6軸の解釈を行った。

### 第6軸:「学年」の弁別軸

- 「性別」、「居住地域」による弁別は明瞭ではなかった。



「健康食品」への関心はその他6項目の関心とは異なる

# 数量化Ⅲ類の項目間距離と分類

## 図(数量化Ⅲ類の項目間距離と分類)の説明

- 各軸のカテゴリースコアを座標成分とした各関心項目間のユークリッド距離を算出した。
- 関心項目は以下の3グループに分けられた。
  - 第1グループ:「栄養バランス」、「楽しい食事」、「食事規則」、「摂取量管理」、「添加物回避」、「種類選別」
  - 第2グループ:「健康食品」
  - 第3グループ:「関心なし」
- 第1グループ内では関心間の距離がどの組み合わせでもほとんど同じだった。

# 本研究の結果のまとめ

- ・「栄養バランス」、「楽しい食事」、「食事規則」、「摂取量管理」、「添加物回避」、「種類選別」の6項目は、子供の食事や栄養に対する全体的な保護者の関心を反映しない
- ・＜背景因子として浮かび上がったもの＞
  - 食品の取捨選択に対する関心の有無
  - 食事や栄養に対して抑制的か否か
  - 健康食品を子供に与えることに対する関心の有無
  - 子供の学年
- ・保護者の「子供に健康食品を与える関心」は低く、またその関心は他の子供の食事や栄養に対する関心とは性格が異なる

# 今後の課題と展望

---

## <課題>

- 保護者の食事や栄養に対する関心のあり方による子供への具体的な働きかけの違いの調査・研究
- 保護者の関心が、子供の食習慣や栄養摂取状況に与える影響の調査・研究

## <展望>

- 子供の食事や栄養に対する保護者の役割の確認